

養殖研究部の研究概要

1. 有害赤潮の発生中も給餌可能な餌料の開発

水産研究・教育機構が開発中の「赤潮に対してへい死軽減効果が期待できる改良餌料」について、現場の実証試験を実施しており、有害赤潮の初期被害軽減対策に必要な知見を得ることを目的としています。



試験に用いるシマアジ・マダイ



改良餌料の給餌風景

2. ブリの種苗生産に関する研究

(1) ブリ人工種苗量産技術開発試験

県内ブリ養殖業の持続可能な発展のため、ブリ人工種苗の量産技術を確立して県内種苗生産業者等へ技術移転することにより、県内における種苗安定供給体制の構築に取り組んでいます。

○人工種苗量産技術開発

人工種苗量産技術の確立のため飼育条件や経済性の検討

○人工種苗の養殖実証試験

生産した種苗の県内養殖業者への配付及び養殖魚としての健苗性の確認

(2) ブリ親魚養成・採卵技術開発試験

県内養殖業者へのブリ人工種苗の安定供給体制構築のため、国が開発した技術を活用し、ブリ親魚養成及び採卵の技術確立に取り組んでいます。具体的には、生産した人工種苗を用いて養殖試験を行い、その中から大型個体を選別して採卵用の親魚としています。



センターで生産した人工種苗



養殖業者への種苗配付

3. 魚介類養殖の生産指導等

養殖魚介類の魚病診断及び水産用医薬品の適正使用指導を行い、疾等による養殖被害の軽減を図るとともに、養殖水産物の海外輸出に必要な証明書の発行等を行っています。

- (1) 魚病診断やクルマエビ急性ウイルス血症検査等の実施
- (2) 水産用医薬品の適正な使用の指導、ワクチン講習会の開催
- (3) 輸出養殖業者が必要とする衛生証明書の発行



魚病診断

4. その他養殖業の生産安定に関する研究

養殖経営を不安定化させる魚病等に対する効果的な対策や防疫について指導するとともに、養殖生産を安定させる養殖技術や新魚種等を開発しています。

- (1) 重要疾病対策
 - ・クルマエビ養殖に甚大な被害をもたらすクルマエビ急性ウイルス血症の防疫体制を維持し、ウイルス病による被害の最小限化
 - ・新型レンサ球菌症（Ⅲ型）等について、被害を防止、又は軽減する技術の開発
- (2) 新魚種及び養殖技術の開発
 - ・環境変動に対応したマガキの新たな養殖手法の開発
 - ・熊本県産カキ類（シングルシード）の人工種苗生産及び養殖の技術開発



クルマエビ急性ウイルス血症
のクルマエビ